



今年度は、感染防止に努めながらの教育活動を進めてきました。一学期は、運動会を始め、様々な活動を保護者の皆様や地域の皆様のご協力のもとに行うことができました。ありがとうございました。

6月になり、南相馬市の感染状況も落ち着いたため、できるだけ通常の教育活動を行えるよう、計画的に進めてきたところですが、7月になり非常事態宣言が発令されました。再び制限をかけつつも、一学期を無事終えることができました。まだまだマスク着用など感染防止対策の徹底は必要ですが、二学期は、学習発表会などの行事で子どもたちの姿を保護者の皆様や地域の皆様に見てもらえることを願っています。

6・7月の教育活動

市鑑賞教室



土砂崩れなどのしくみや、土砂災害から命を守るために大切なことを学びました。

南相馬市の鑑賞教室に4～6年生が参加しました。本物の演技に感動しました。

防災教室



はみがき教室



全学年で歯の大切さや歯磨きの仕方を学びました。

スポーツ集会



スポーツ委員会の主催でスポーツ集会を行いました。全校生で体を動かし楽しく活動しました。

七夕集会



コロナ感染防止のため集会はオンラインで行いました。学年毎に七夕飾りの前で記念撮影。

食育教室



食事の大切さを学びました

2年ぶりの水泳の授業。気持ちよさそうに笑顔でプールに入ることができました。

水泳授業





図書室の前に、図書館司書の先生が作ってくれた

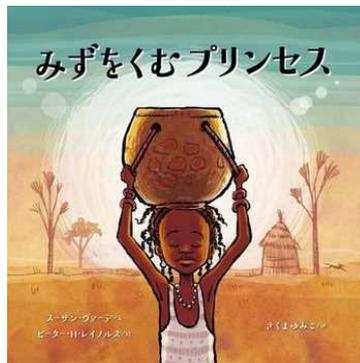
「課題図書2021」のコーナーがあります。

改めて課題図書を読んでもみると、おもしろいというだけではなく、現在の社会問題などについて考えさせられる題材の本が選ばれているのが分かります。その中から、特に印象に残った3冊を紹介します。



カラスが人のそばでくらすのはなぜでしょう。そぼくな疑問をひもといていくと、カラスのいいぶんが聞こえてきました——身近な生きものでも、まだまだ知らないことがたくさん！知る、調べる楽しさがいっぱいのできる1冊です。

嶋田泰子 著
岡本順 絵
童心社



水は、まいにちくみにいくもの。どんなにたいせつか、プリンセス・ジージーはよくしっています。だから、ねがいます。だれもが、いつでも、きれいであぜんな水をつかえるようになりますように。いつのひかきつと。

スーザン・ヴァーデ 文
ピーター・H・レイノルズ 絵
さくまゆみこ 訳
さ・え・ら書房



反目しあっていたパーケルとスフェンの深まっていく友情の鍵を介助犬のアラスカがにぎっています。生きることへの不安だけではなく、その不安を乗り越える勇気も描いた作品です。

アンナ・ウォルツ 作
野坂悦子 訳
フレーベル館

※画像、本の紹介は青少年読書感想文全国コンクールホームページより引用

児童用の図書ですが、大人が読んでもおもしろく考えさせられることがたくさんあります。

課題図書だけに限りませんが、お子さんやお孫さんと同じ本を読み、家族で感想を話し合うのもいいのではないのでしょうか。

個人的な思いですが、今はスマホやタブレットなどでも本は読めますが、やはり読書は実際の本で読むのがいいのではないのでしょうか。

八沢の光

…ゲームは子どもの脳に影響を与える…

私が、20代後半の頃、パソコンが急速に普及し始めました。初めてカラーのモニターを使ったころのことです。子どもたちに見せようと、プログラミングを使って、物が動くゲームを作っていたのですが、夜遅くまでその作業をしていたとき、眠ろうとしても頭の中にパソコンの画面がちらついて眠れなくなってしまったことを覚えています。おそらく、まだ脳がカラーで物が動く画面を長時間見ることに慣れていなかったのだと思います。今は、自分の脳も慣れていて、制御する力もついていると思うのですが、子どもの脳はどうでしょうか。発達途中の子どもの脳に影響があるとしたら、ICTは積極的に活用すべきです。しかし、その内容や使う時間などはしっかりコントロールすることが大切だと思います。ICTを積極的に活用する八沢小学校だからこそ、取り組まなければならない重要な課題です。